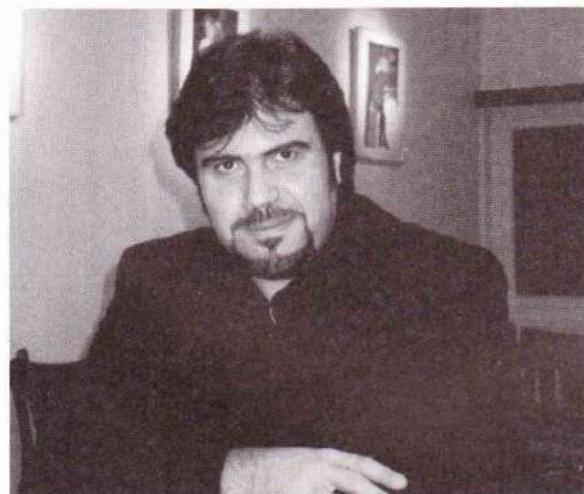




取材文=中東生



## カルロ・ヴェントレ

テノール *Carlos Ventre*

ウルグアイ出身の注目のテノール、  
カターニャ歌劇場来日公演で6月に来日

前回の来日公演が好評だったカタ

ニヤ歌劇場（イタリア・ベッリーニ大劇場）が、同じキャスト、同じ

演出家の新演出『ノルマ』で再来

日する。難役ボリオーネを見事に歌

いこなす若手の注目株、カルロ・ヴ

ェントレに話を聞いた。

——ボリオーネの難しさは？

ヴェントレ（以下、V） 前後半で、2つの声、2つの歌い方を要求されるところです。前半はベルカントテノールらしく開き気味のポジションで、明るく高音を出すことを要求されるのに対し、後半はバリトンのようなかぶせた暗めの音色で、低音を元にポジションを作ります。僕のようない、暗めの声色で高音を染み出せるテノールは、ボリオーネに最適だと思います。

——あなたのボリオーネの聴かせどころは？

V 私は自分のために歌っているのではなく、人に何かを与えることが好きなので、毎回よりよい公演を聴いていただこうと、切磋琢磨する日々を過ごしています。将来は、才能があるのにチャンスに恵まれない若手を、経済的、技術的にバックアップできるようになります。僕自身、イタリア人の父とスペイン人の母の、裕福とは言えない家庭に生まれ、もの心ついた時から歌つてはいても、デビューまでには大変苦労しましたから。

● まずアリアです。高音が含まれるヴァリエーションで歌い、テクニックをすべてお聴かせできます。あとは、大変ドラマティックなノルマとの二重唱です。

——将来的夢は？

V 定期的に日本に行くことです。

——お世辞とは思えない真顔で言うので、理由を聞くと、私はウルグアイ生まれですが、日本人と共に通点があるようを感じられ、大好きです。日本では、日本の聴衆には大変温かく迎えていただきましたが、皆さん音楽をよく分かっているので、悪い演奏は受け入れられないインテリジェンスがあり、自分の芸術にとつてよい試金石になるからです。

——あなたのキャリアの目標は？

V 私は自分のために歌っているのではなく、人に何かを与えることが好きなので、毎回よりよい公演を聴いていただこうと、切磋琢磨する日々を過ごしています。将来は、才能があるのにチャンスに恵まれない若手を、経済的、技術的にバックアップできるようになります。僕自身、イタリア人の父とスペイン人の母の、裕福とは言えない家庭に生まれ、もの心ついた時から歌つてはいても、デビューまでには大変苦労しましたから。

まつすぐな視線から満ちあふれるエネルギー。背筋が伸びるようでいて、彼の存在 자체が大きな安らぎであるような、人間の大きさを感じた。